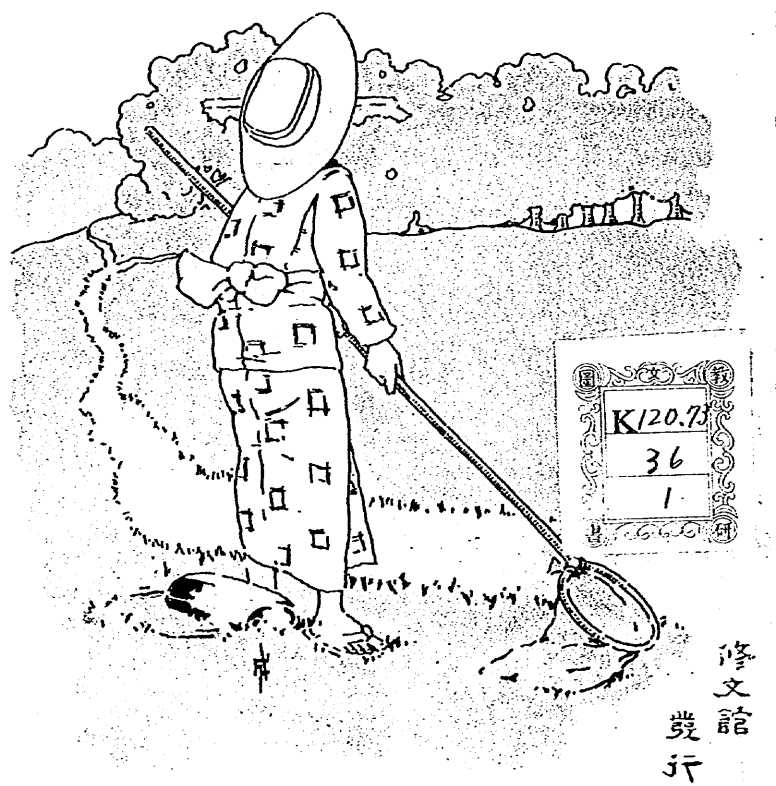
K120.73
36
1

田村虎藏 編

國定小學讀本唱歌

高等科一學年



K120.73
36
1

修文館 發行

緒言

國定の小學讀本中の韻文はさすがに教育的に出來て居て、唱歌教材にも十分應用し得るものと思ふ。余は是等韻文に曲節を附して、余が奉職せる東京高等師範學校附屬小學校の兒童に教授する考であったが、たまたま、修文館主も、余と同じような意見を持して居るので、文部省の許可を經て、茲に本書を公にすることとなりました。

治 3 39 8 内

惟ふに、このごろ、唱歌書類が續々と出版されます故、是等の教材を各學年の程度に合せて取捨選擇するは、隨分手數のかかることである。然るに、國定の小學讀本中の韻文は、程度を逐うて出來て居る事は勿論、國語教授で、その意義をも兒童が十分會得して居るから、尠くとも、歌詞だ

けには前述のような心配のなきのみならず、兒童をして、眞の興味を起させ、所謂教育的教授が出來ることと思ひます。

余、數年小學教育に從事して、聊か唱歌教授上に經驗もある故、この書を公にして、大方の批評を乞ふ事となった。若し、この書が、唱歌界に幾分なり貢献する所があるならば、余の光榮とする所であります。

猶、本書を編纂するについて、編者の用意を一言すれば、

一、曲節は、余が數年の實驗に徴して、兒童の嗜好に鑑み、その程度を考へて、順次、音樂上の發達を圖ることに力め、凡て、前後の連絡を保つように作ってあります。

一、韻文には、朗讀的と唱歌的との二種がある。例へば、國定の高等小學讀本中、一の卷にある「浦島子」の如きは、朗讀的韻文であるから本書にはこれを省いたのであります。

一、本學年には、四度七度の兩音を自在に唱へしめ、かつ、六度音程と、一個の臨時音とを加へたれば、教授者は茲に注意されんことを望みます。

一、本書中、一音符に二文字を配當してあるのは、その音長を二等分するのであります。

明治三十七年十二月二十日

編者識す

國定小學

讀本唱歌

高等科一學年

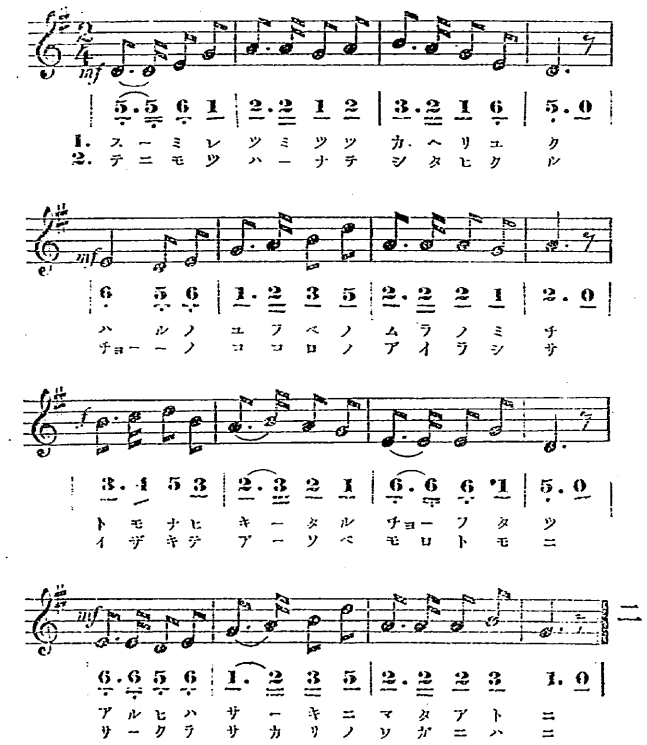
目次

春の景色……三
夏やすみ……五
富士登山……九
聯隊旗……一四
笠置落……一七

春の景色

（ト調二拍子）

中等ニ　　優美ニ



二

春の景色

一

すみれつみつつ、　歸り行く、
春のゆふべの　村の道。
ともなひ來る　蝶、二つ、
あるひは、先に、　また、後に。

二

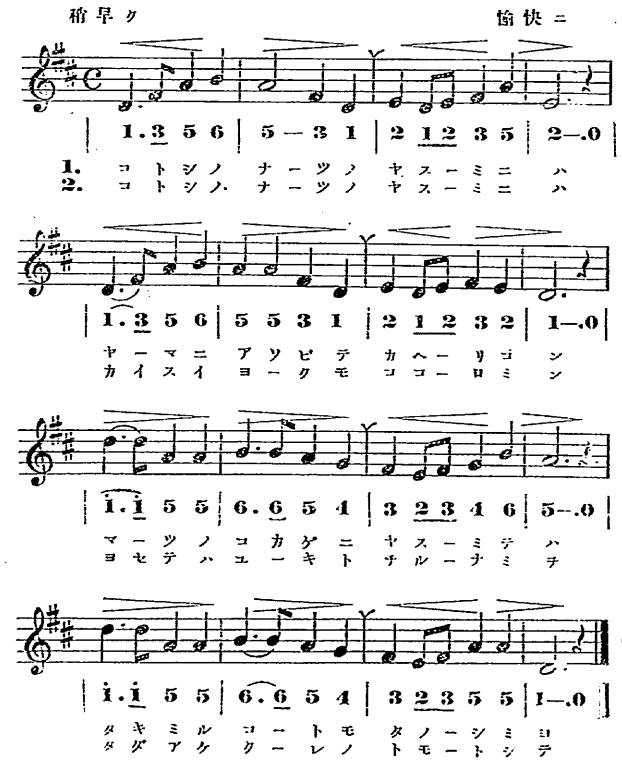
手に持つ花を　したひ來る
蝶の心の　愛らしさ。
いざ。來て遊べ、　もろともに。
櫻さかりの　わが庭に。

三

夏やすみ

(ハ調四拍子)

稍早ク　愉快ニ



四

夏やすみ

一　ことしの夏の休には、
　山に、遊びて、歸り來ん。
　松の木蔭に、休みては、
　　瀧見ることも樂よ。

二　ことしの夏の休には、
　海水浴もこころみん。

よせては、雪と、ちる波を、
ただ、あけくれの友として」。

三

からだきたふは山の道、
空氣のよきは海のそば。
花つみ集め、貝を取り、
知識(ちしき)ひろむる益多し」。

四

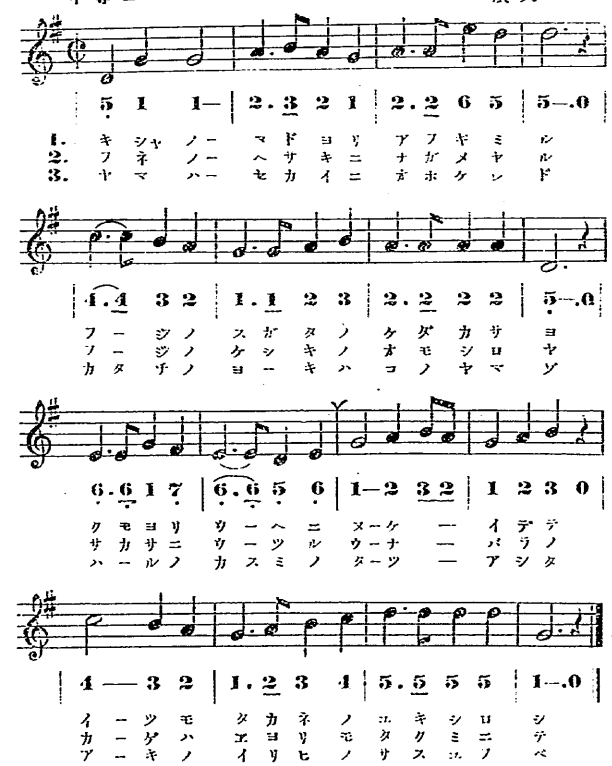
いざ。いざ。行かん、この夏も。
父もろともに、母ともに。

かはれる里(さと)のならはしを
見聞くもうれし、旅をして」。

富士登山

（ト調二分の二拍子）

中等ニ　廣大ニ



富士登山

一　汽車の窓より、
　　あふぎ見る
富士のすがたの
　　けだかさよ。
雲より上に
　　ぬけ出でて、
いつも、たかねの
　　雪白し。

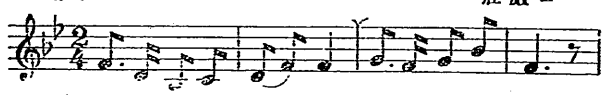
二　船のへさきに、
　　ながめやる
富士のけしきの
　　おもしろや。
さかさに、うつる
　　うなばらの
かげは、瓦よりも、
　　たくみにて。」

三　山は、世界に、
　　多けれど、
形のよきは
　　この山ぞ。
春のかすみの
　　たつあした、
秋の入日の
　　さす夕べ。」

聯隊旗

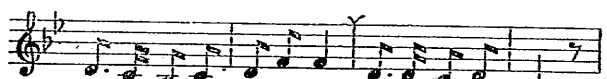
（變ロ調二拍子）

稍早ク　　壯盛ニ



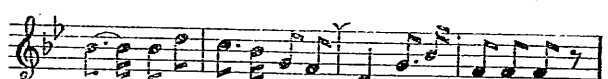
| 5. 3 1 2 | 3 5 5 | 6. 5 6 i | 5. 0 |

1. ワガテンノーノミテヅカラ
2. ナガキツキヒノソノアヒダ



| 3. 2 1 2 | 3 5 5 | 3. 3 2 3 | 1. 0 |

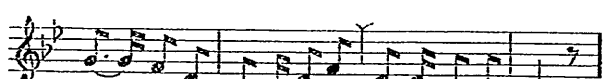
サヅケタマヘルレンダイキ
カヒニサラサレアメニヌレ



| i. i i 3 | 2. i 6 5 | 3 6. i | 5 5 5 0 |

ハータノテガラハクニノホマレ
ゲンバノアヒダヲオーーライシ

十二

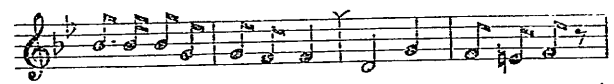


| 6. 6 5 3 | 1. 2 3 5 | 3. 3 2 2 | 1. 0 |

ハータノケガレハクニノハダシ
クロキヲハータノヒカリトダシ

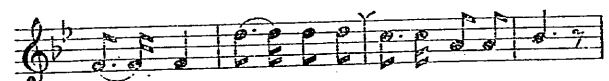
聯隊旗

（つづき）



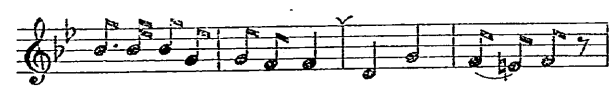
| i. i i 6 | 6 5 5 | 3 6 | 5 4 5 0 |

カタジケナクモソノヘリハ
サケシチハタノホマレトシ



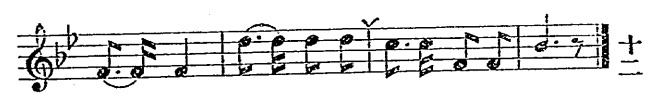
| 5. 5 5 | 3. 3 3 3 | 2. 2 7 7 | i. 0 |

コーゴーヘイカノオンテヌヒ
ヒトタビエテハーチヨマデモ



| i. i i 6 | 6 5 5 | 3 6 | 5 4 5 0 |

マタカシコクモバンゴーハ
ヨロヅヨマデモツタヘユク



十二

| 5. 5 5 | 3. 3 3 3 | 2. 2 5 5 | i. 0 |

テンノーヘイカノオンフデヅ
レンダイキコソーダフトケレ

聯隊旗

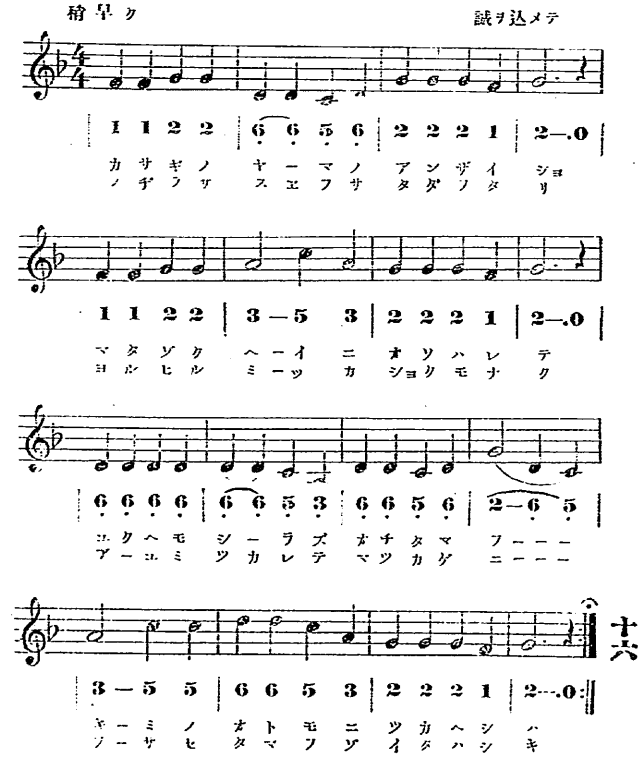
わが天皇の、御手づから、
さづけたまへる聯隊旗。
旗のてがらは國のほまれ、
旗のけがれは國のはぢ。
かたじけなくも、その縁は
皇后陛下の御手縫。
また、かしこくも、番號は
天皇陛下の御筆ぞ。

長き月日の、その間、
風に、さらされ、雨に、ぬれ、
軍馬の間を往來し、
黑きを旗のひかりとし、
さけしを旗のほまれとし、
ひとたび、えては、千代までも、
萬代までも、つたへゆく
聯隊旗こそたふとけれ。

笠置落

（律旋調四拍子）

稍早ク　　誠ヲ込メテ



笠置落

笠置の山の行在所、
　また、賊兵におそはれて、
行くへも知らず、落ちたまふ。
　君のおともに仕へしは、
藤房、季房、ただ、二人。
　夜、晝、三日、食もなく、
歩み疲かれて、松かげに、
　ふさせたまふぞ痛はしき。

君は御袖に、ふりかかる
露うちはらひ「さして行く、
笠置の山を出でしより、
天が下には、かくれがも
なし」と歌はせたまひしに、
藤房、やがて「いかにせん、
頼むかげとて、たちよれば、
なほ、袖ぬらす松の下露」と

御返歌申し、泣きゐたる、
やみの天地を、また、もとの
御代にかへすはたが任ぞ。
金剛山下に、忠士あり。

明治三十八年一月二十四日印刷
明治三十八年一月二十七日發行
明治三十八年三月二十五日訂正再版印刷
明治三十八年三月二十九日訂正再版發行

國定小學 讀本唱歌
高等一、二、三、四 各金五錢

編纂者 田村虎藏 東京市神田區錦町一丁目十番地
發行者 渡邊鐵藏 大阪市南區鹽町通三丁目八十番屋敷
發行者 鈴木常松 東京市麹町區有樂町三丁目一番地
印刷者 大西錬三郎 東京市京橋區弓町二十四番地
印刷所 三協合資會社

不許複製轉載
著作權所有
不許筆記代用

發行所
東京市神田區錦町一丁目 修文館
大阪市南區鹽町通三丁目
大阪市東區安土町四丁目 積善館

H135.7